

各 位

会 社 名 ケネディクス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 川 島 敦  
 (コード番号 4321 東証1部)  
 問い合わせ先 取締役経営企画部長 吉 川 泰 司  
 電 話 番 号 (03) 3519-2530

## 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 2 月 12 日に公表しました平成 22 年 12 月期(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)の第 2 四半期連結累計期間及び通期連結業績予想を下記の通り修正するとともに、特別損失の計上につきましてもお知らせいたします。

記

### 1. 業績予想の修正

(金額の単位：百万円)

平成 22 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	13,000	3,500	500	△800	△660 円 07 銭
今回発表予想(B)	22,700	5,000	2,000	△1,600	△1,320 円 15 銭
増減額(B-A)	9,700	1,500	1,500	△800	
増減率(%)	74.6	42.9	300.0	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 12 月期第 2 四半期)	60,334	10,761	6,552	△8,840	△13,887 円 30 銭

平成 22 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	44,900	8,600	3,300	400	330 円 03 銭
今回発表予想(B)	31,500	7,900	2,200	△2,400	△1,980 円 22 銭
増減額(B-A)	△13,400	△700	△1,100	△2,800	
増減率(%)	△29.8	△8.1	△33.3	—	
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 12 月期)	77,831	8,433	225	△18,438	△23,968 円 93 銭

### 2. 業績予想修正の理由、特別損失の計上

(第 2 四半期連結累計期間)

当社グループでは、急激な事業環境の変化に柔軟に対応すべく、受託資産残高の成長、バランスシートのスリム化、安定的な収益構造の構築を柱とした中期経営計画の方針に沿って諸施策を着実に実行し、既に一定の成果を見るに至っております。平成 22 年 2 月には、当社グループ及び事業環境の変化に伴う中期経営計画の見直しを行い、アセットマネジメントビジネスへの回帰という基軸を維持しつつ、受託資産残高の成長スピードを上方修正する等、その実現に向けた取り組みの更なる強化を図った結果、平成 22 年 5 月末時点において、当社グループの受託資産残高は 1 兆円を突破いたしました。

こうした受託資産残高の増加に伴い、安定収益であるアセットマネジメントフィーの順調な推移が見込まれることに加え、平成 22 年 5 月には、年金基金等の韓国機関投資家の資金により、資産規模約 100 億円の不動産私募ファンドの組成及び当該ファンドへの自己勘定保有物件の組入れを当初計画していた下期から前倒しして実現することに成功いたしました。この結果、営業収益、営業利益及び経常利益が当初計画を大幅に上回る見込みとなりました。

しかしながら、一方で、バランスシートのスリム化を進めるに当たり、海外不動産保有の連結子会社の譲渡及び固定資産の譲渡に伴う損失を中心に、特別損失として合計 22 億円を見込んだ結果、四半期純利益については当初計画を下回る見込みです。

以上より、第2四半期連結累計期間の連結業績予想値について、営業収益、営業利益、経常利益及び四半期純利益を修正することといたしました。

(通期)

第3四半期連結会計期間以降におきましても、引き続き新たな私募ファンドの組成やアセットマネジメントの新規受託を積極的に進めてまいります。

一方、自己勘定で保有している物件について、私募ファンドへの組入れによる不動産売却収入を当初計画で見込んでおりましたが、当該ファンドの早期組成を引き続き目指すものの、現時点での組成に向けた状況を踏まえて、利益計画を保守的に策定するとの観点から、当該不動産売却収入を通期の利益計画に見込まないことといたしました。これにより、営業収益が当初計画を大幅に下回る見込みとなりました。また、フィー収入や匿名組合分配損益の一部見直し等を合わせて行った結果、経常利益が当初計画を下回り、当期純利益につきましても、第2四半期連結累計期間で計上を見込んでいる特別損失の影響が大きく、当初計画を大幅に下回る見込みとなりました。

以上より、通期の連結業績予想値について、営業収益、営業利益、経常利益及び当期純利益を修正することといたしました。

(注)上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし前提（仮定）は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。